令和 4年 9月

福岡晃平　学位論文審査要旨

主　査　　西　村　元　延
副主査　　永　島　英　樹
同　　大　槻　明　広

主論文

Preventing recurrence after surgical repair of pressure injuries in patients with spinal cord injury: Effects of a presurgical and postsurgical wheelchair seating intervention by experts

（脊髄損傷者における褥瘡の術後再発予防：術前術後のシーティング専門家による車椅子調整の効果）

（著者：福岡晃平、陶山淑子、森田真紀、生田健人、金山晴香、梅田竜之介、木村悠花、土中伸樹、藤井香織、八木俊路朗）

令和4年　Journal of Tissue Viability　31巻　552頁～556頁

参考論文

1. 足潰瘍にセラチア菌感染を生じ、治療に難渋した1例
   （著者：福岡晃平、中山敏、陶山淑子、八木俊路朗、千酌浩樹）
   平成27年　創傷　6巻　167頁～171頁

2. 分層採皮創に対する余剰植皮片移植の効果
   （著者：福岡晃平、陶山淑子、森田真紀、八木俊路朗）
   令和2年　形成外科　63巻　308頁～313頁

3. Effect of subcutaneous adrenaline/saline/lidocaine injection on split-thickness skin graft donor site wound healing
   （アドレナリン、生理食塩水、リドカイン溶液の皮下注射が分層採皮創の創傷治癒に与える影響）
   （著者：福岡晃平、八木俊路朗、陶山淑子、貝田亘、森田真紀、久留一郎）
   令和3年　Yonago Acta Medica　64巻　107頁～112頁

審　査　結　果　の　要　旨

脊髄損傷者の褥瘡に対する外科治療は術後再発率が高いことが問題であり、術後再発低減のための方策の一つとして適切な車椅子や座クッションの設定（シーティング）が重要である可能性がある。本研究は褥瘡根治術の術前からシーティング専門家が介入し適切な車椅子およびクッションの準備することの有用性を検討したものである。褥瘡根治術を行った脊髄損傷者を対象に、術前から専門家によるシーティング調整を行った群と行わなかった群において術後再発率を比較検討した。その結果、術前から専門家によるシーティング調整を行った群では術後再発率が有意に低下することが示され、介入の有効性が示唆された。本論文の内容は、術後再発率の高さが課題となっている脊髄損傷者の褥瘡の外科治療において、術前からのシーティング介入が術後再発率を低下させる有効な手段であることを示唆するものであり、脊髄損傷者の褥瘡治療の分野において明らかに学術水準を高めたものと認める。